

学びのアップデート

令和3年9月28日
第8号
東京都教育庁総務部
教育政策課

都立学校と区市町村教育委員会向けに、児童・生徒一人1台常時接続環境におけるICT利活用の充実を図るため、実践事例通信「学びのアップデート」を、昨年度から定期的に配信しています。

第8号では、「教育イノベーションを実現するための中核教員向け研修」において、受講者間で共有した各校でのオンライン活用に向けた取組について紹介します。

オンラインで実施しているこの研修には、各校においてデジタル利活用の中核を担う教員が受講しています。研修では、受講者同士がそれぞれの取組についてチャット機能を使って共有し、それを自校で実践していくこともねらいとしています。未来を生きる子供たちに必要な資質・能力を育むため、各学校におけるデジタル利活用の一層の推進に向けた取組が多くの学校で始まっています。

研修テーマ① 「一人1台端末でできるようになったこと」

一人1台端末が導入されて、多くの実践を重ねている先生もいれば、何をどうすればいいか困っている先生もいるかと思います。具体的な利活用の事例を知ることが活用の第一歩になります。各校種での「一人1台端末でできるようになったこと」を紹介します。



昆虫の成長の様子を自分の端末で撮影し、記録をつけて、学習支援サービスのノート機能を活用して提出させている。前回までの様子と比べる活動ができた。(小学校)

授業や自主学習で分からないことを生徒が投稿し、他の生徒が答えることで、デジタル上での学び合いができるようになった上、他の生徒にも共有できた。(高等学校)

学習支援サービスの画面共有とホワイトボード機能を使って、学校にいる生徒と、自宅にいる生徒とで、協働で美術作品を作ることができた。(特別支援学校)

オンラインでミニテストを行い、各自が誤答をしたときにも個別に指導ができた。感想や質問があるときに、なかなか人前では話ができない生徒も多くの質問ができる環境が生まれた。それを使ったことでのリアルタイムのコミュニケーションが取れるようになっている。(中学校)

研修テーマ② 「どの単元でどのように使うか」「どのような資質・能力を育成するか」

利活用を進める上では、一人1台端末を各教科の中で、「どの単元でどのように使うか」「それによりどのような資質・能力を育成することをねらうか」を考え、実践していくことが求められます。

作業学習の活動において、統合型学習支援サービスのビデオ会議を用いて各作業班をつなぎ、進捗状況の把握や成果報告等を実施する。活動内容に対しての状況把握など、思考力・判断力を育成する。(特別支援学校)

中学2年の数学、確率の学習において、実際にサイコロを振った回数をグループで端末に入力する。グループの人数を増やすことで、全体の人数が増えていく中で確率がどう変化するかを考える。その考えを端末上で共有する。実際の結果を分析する力や、数学的思考力を身に付けることができる。(中学校)

倫理の探究において、統合型学習支援サービスを使った投稿機能等を使い、課題解決型の学習をオンラインで実施した。生徒は投稿でやり取りをしながら、お互いの問いを深めていくことができ、課題解決能力の一つとして、多面的・多角的な考察をする力を育むことができた。(高等学校)

国語、物語教材の学習において、読み取ってきたことを基に自分の考えをまとめる、手書きではなくタブレットで入力することで、思考の繰り返しをしながら考えをまとめる力を身に付ける。互いの考えを瞬時に共有し、コメントを合うことで、互いの考えを認め合い、考えを深めることができる。(小学校)

研修テーマ③ 利活用推進のための取り組み

学校全体で利活用を進めていくにはどうしたらいいか、「実践の共有」「校内体制」「業務の効率化」という観点で紹介します。

「実践の共有」

- 一人の先生が授業者、他の先生がサポートの形で、オンライン学習を行う。ペアを交換しながら活動を繰り返すことで、授業改善を行いながら実践を広げることができる。
- 校内で実践を進めている先生を講師に研修を実施し、実践を広めている。
- 取組の成果と課題を視覚化する工夫として、A4一枚のレポート形式にまとめる。
- 実践例を動画等で蓄積して、教員で共有する。
- ICT支援員が各クラスを回って、各学年の実践の情報収集を行う。

「校内体制」

- 「オンライン教育推進プロジェクトチーム」を立ち上げて、実際に全校生徒・全教員で分散登校中にオンライン学習を実施する。
- 学校全体でICT活用の系統表を作り、各学年で最低限できてほしいことを共有する。
- 「情報モラル week」を設定し、各学級で話し合う→代表委員が結果を集約する→「○○学校情報モラル宣言」のような形で全校に示し、みんなで取り組んでいく。
- 職員会議の最後10分程度を継続的に使用し、実践事例や進捗状況を報告・提案する。

「業務の効率化」

- 動画教材を撮りためておくと、次の授業(翌年度の授業)で授業準備が楽になる。
- プールの塩素の入れ方や、水の注水排水方法などは、簡単な動画にして共有した。
- 学校評価アンケート、授業アンケート、保護者会の出欠、三者面談の予約などをデジタルで行う。
- 保護者への配布物を統合型学習支援サービスによる配布でペーパーレス化する。
- ICT支援員に、校内で実施する研修に関与してもらう。